

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	杉谷 修一	職名	准教授	学位	教育学修士 (九州大学 1990 年)
----	-------	----	-----	----	---------------------

研 究 分 野	研究内容のキーワード
教育社会学	子ども、遊び、社会化、相互行為、ニューメディア、ゲーミフィケーション

研 究 課 題
(1) 相互行為としての子どもの遊びにおけるシンボルの役割とそれをめぐる秩序形成に関する研究。 (2) 教育におけるゲーミフィケーションの社会学的分析に関する研究。 (3) ニューメディアと子どもの社会関係に関する研究。

担 当 授 業 科 目
道徳教育の理論と実践 (前期) (看護学科) 道徳教育の理論と実践 (前期) (福祉学科) 道徳教育の理論と実践 (前期) (栄養学科) 道徳教育の理論と実践 (前期) (英語学科) 社会調査の基礎 (前期) (福祉学科) 現代と教育 (前期) (英語学科) 現代と教育 (前期) (観光文化学科) 教育原理 (後期) (福祉学科) 教育社会学 (後期) (看護学科) 教育社会学 (後期) (福祉学科) 教育社会学 (後期) (栄養学科) 教育社会学 (後期) (英語学科) 社会学概論 (後期) (福祉学科) 初年次セミナーⅠ (前期) (福祉学科) 初年次セミナーⅡ (後期) (福祉学科) 教職実践演習 (後期) (看護・福祉・栄養・英語学科) 養護実習 (福祉学科) 事前および事後の指導 (三期にわたる) (福祉学科)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 道徳教育の理論と実践 】 道徳の理論に関する学習にとどまらず、教育現場での道徳教育の実践と結びついた力を養うことを心がけた。次期学習指導要領改訂など現在進行中の道徳教育の改革動向も踏まえ、特に授業としての道徳の観点から、学習指導案の構造と基本的な書き方を身に付けさせ、模擬授業と事後指導を全体で共有した。授業づくりの基本的ルールを具体的な指導案に反映させる工夫を行った。また視聴覚教材をはじめ、児童生徒にわかりやすい教材づくりを具体的に紹介した。 遠隔授業であったため、道徳教育の動画視聴、クラスルームを活用した 指導案の添削指導などを心掛けた。
授業科目名【 社会調査の基礎 】 国家試験科目の中でも学生が得意な分野であるため、基礎をくりかえし学習することで確実に理解できるよう心がけた。特に統計に関連する分野では、計算をさせるのではなく、統計手法が何を意味し、何の役に立つのかという観点から学習を組み立てた。具体的な例、概念図などについて複数の比較を行うなど工夫して理解を助けた。授業終了後もポイント解説のプリント配布やメールでの指導を行った。

<p>遠隔指導による板書指導の不足を補うため、ホワイトボードアプリの導入など工夫した。</p>
<p>授業科目名【 現代と教育 】</p> <p>現代の子どもの遊び文化の特徴を解説し、それと比較する形で昔の遊びの変遷をたどった。特に社会的・文化的な条件が遊びに与える影響をルール・道具・名称・機能等との関連で整理し、遊び研究が単なる遊びカタログの解説とは違う点に注目させた。その上で、改めて現代の遊びを巡る状況と将来展望について論じた。遊びの様子を理解させるために伝統玩具の製作プロセスのビデオを解説し、玩具の実物を手にとって理解できるように心がけた。現代の動向についてはVRやARなど仮想空間上の遊びと現実の遊びや消費行動との結びつきについて解説した。</p> <p>遠隔授業であったため、過去の遊びコンテンツを動画で視聴したうえで解説するなど工夫した。</p>
<p>授業科目名【 教育社会学 】</p> <p>子どもの発達社会学というテーマについて、家族・地域・学校といった社会化の場の相互関連をイメージさせながら授業を行った。社会化の場としての学校・地域・家族の関連を近代以降の変遷を通じて解説し、そのための補助教材を工夫した。テキストで不十分な箇所についてはビデオ教材や別資料をもとにしたレジュメ・スライドを作成した。発展的学習として、キーワードを用いて複雑な対象を説明する方法について解説した。</p> <p>遠隔授業であったため、テキストの図表およびそれを補う視聴覚教材を準備し、そこに書き込み等ができるよう教材を工夫した。</p>
<p>授業科目名【 社会学概論 】</p> <p>国家試験受験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、社会学の抽象的概念を具体例で考えられるように工夫した。特にモデル図や身近な現象でたとえた具体例を多用したレジュメを準備し、丸覚えではなく理解できることを目指した。また、途中で復習の授業を取り入れ、キーワードや問の立て方などを示したプリントを配布し、負担を軽減しながら理解を促した。今期は動画の活用なども試みた。授業後の質疑応答なども積極的に活用した。新しい試みとして、抽象的な概念を映画のシーンなどを教材として活用した。授業終了後もポイント解説のプリント配布やメールでの指導を行った。本年度は遠隔授業中心であったため、クラスルームを活用して丁寧な指導となるよう心掛けた。</p>
<p>授業科目名【 初年次セミナーⅠ・Ⅱ 】</p> <p>1年生対象授業でありながら遠隔授業となったため、できるだけ学生の発言を促す取り組みを行った。Meet で小グループを作ってディスカッションを行い、スライド作成アプリでグループ共同作業を行うなどの形式を取り入れた。一方でグループ活動に抵抗感がある学生や、初年次セミナー以外でのつながりを希望する学生の要望に応えるために、時間外に初年次セミナーの Meet を活用して困らねどける機会を設け、そのリアクションを学生にフィードバックするなど、遠隔授業から大学生活を開始せざるをえなかった新入生支援を行った。</p>

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本教育社会学会 九州教育社会学会	紀要編集委員 (2009年4月～2011年3月、 2016年3月～2016年12月)	1985年6月～現在に至る 1985年6月～現在に至る
日本教育学会 九州教育学会 日本社会学会 日本教育方法学会		1990年5月～現在に至る 1990年5月～現在に至る 1990年11月～現在に至る 1997年5月～現在に至る

2020年度 研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(1) 共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
(2) 個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
特定非営利活動法人生涯学習指導者育成ネットワーク	生涯学習指導者育成セミナー講師	2007.9～現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）
教職課程委員 2014年4月1日～現在に至る 福祉学科リカレント委員 2019年4月1日～現在に至る